

2026年
No. 108
4月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



飾り巻きずしを作ろう！

2月18日(水)

世界の料理教室は毎年開催される KIFA の人気講座です。講師を招いて世界本場の料理を作り、参加者はそれを味わいながら交流を深めています。3月3日のひな祭りを迎える今回は、日本の飾り巻きずしを作りました。

調理室に入ると、窓際にお雛様と菱餅などが飾ってあります。まずひな祭りの説明をしたあと、巻きずしの男雛と女雛の見本を確認します。

酢飯を桜でんぶやゆかりで色付けをし、巻きずしで巻き上げます。そのすしを縦に切って、胴体を作ります。上図のように海苔の上に玉子焼きと海苔四分の一をのせたら、縦半分に切った胴体を背中あわせに置きます。さらに海苔で包んだスティックチーズと山ごぼう（男雛の場合は野沢菜）を上のにせて全体を包みます。少量のご飯



粒を糊代わりにして海苔を止めるのがコツです。酢飯は手や包丁にくっつきやすいので、お酢で湿らせながら握ったり切ったりします。参加者は奮闘しながらも飾り巻きずしを完成させました。

巻物を切るとお雛様が出てきました。仕上げに黒ゴマで目を

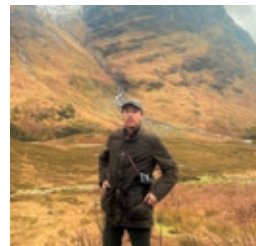
つけ、かまぼこやごぼうで扇や杓をのせて出来上がり。講師とボランティアが事前に材料を選び、野沢菜を巻きやすくしておくなど、きめ細やかな下準備と当日の丁寧なサポートが成功の秘訣だとわかりました。

中国、台湾、ベトナム、インドネシア出身の参加者6名は完成後巻きずしの写真を撮り合いました。手毬麩のお吸い物と一緒に試食し、桜餅やひなあられのデザートとお茶も用意され、数か国語で国や文化について話が飛び交い、和気あいあいとしたひとときになりました。



小平生まれ小平育ち、イギリスで生活してみた。

本誌ではこれまで、当協会の取り組みや市内の海外ルーツを持つ方々について取材を通して活動や活躍をお届けしてきました。今号では、機関紙グループボランティアの竹田が視点を変えたレポートをお届けします。普段は会社員をしている私が、今年1月思い立ってイギリスにて1か月リモートワークをしてみました。その中で見たこと、感じたこと、意外な小平市とのつながりをご紹介します。



筆者：グラスゴー北部に広がる強風のハイランド地方にて。この後、帽子が谷へ。

スコットランドへ

イギリス(またの名を連合王国)と言えば何を思い浮かべるだろうか。ビッグベン、バッキンガム宮殿、あるいはフィッシュ&チップス。話題の中心は、南部のロンドンになりがちだ。東京の浅草寺やスカイツリーだけでは日本を語りきれないように、イギリスはロンドンだけをみてもわからない。そんな思いを抱えながら、私は北部地域であるスコットランド第二の都市グラスゴーに降り立った。80年代のポップスター ABBA が楽曲でこの地を歌っていたからというなんとも単純ないきさつであった。

紫の二階建てバスが走る大学都市

グラスゴーは多くの方にとって聞き馴染みはないだろう。それもそのはず、スコットランドの中心地はエディンバラ、グラスゴーは比較的新しい都市だ、とあるグラスゴー人は「金を稼ぐのがグラスゴー、金を使うのがエディンバラ」と話していた。これを象徴するようにグラスゴーの街には働く人、若者があふれ、実にエネルギーがあふれていた。グラスゴー中央駅を出て気づくのは、ラーメン屋の多さだ。体感的にロンドンよりも多いと思うほどだ。意外な日本食ブームを横目に散策していると、活気のある街を支えるグラスゴー大学へたどり着く。街と大学との境界線は実に曖昧で、市民に開かれた施設や博物館が点在している。街全体がキャンパスなのだ。



グラスゴー大学の隣に位置するケルヴィングローブ美術館。

語りかける標語



スコットランドで見つけたのは「語りかける標語」だ。列車内にこんな文言を見つけた「みんながゴミ箱(bin)を使えば勝利(win)」。単語はやさしく、メッセージの中心は共感、お願いでなければ命令でもない、その上で韻も踏んでいる。街中ではこうした標識や注意書きを度々見かけた。言語を問わず、日常のコミュニケーションや外国人向けの日本語表現でも大学、公共交通機関の多い小平市では、こうした精神は参考になるのではないかと思う。定型句や「やさしい日本語」が重要であるのは明らかだが、加えてシンプルで共感してもらえる言い方はさらなる協力や強い結束をもたらすかもしれない。

小平市民的アイデンティティ

イギリスと小平市の間には共通点はなさそうだが、面白い発見があった。丸ポストだ。イギリスには、100年以上前から変わらぬ姿の赤い丸ポストがいまも街中に溶け込んでいる。その姿はまさに小平。そもそも日本の丸ポストはイギリスを参考にしたという説もあるようだ。ポストには王か女王の名が刻まれ、その刻印は設置された時代によって異なる。まさに時代の証人である。ちなみにスコットランドの丸ポストには歴史的背景から、エリザベス2世の名前が書かれていないこともある。丸ポストを愛する(であろう)小平市民にはたまらない話は尽きない。そんな丸ポストも昨年からはデジタル化に対応するために国全体で改修が進められているようで、今後の様子が気になるところである。



エドワード7世(1901~1910年)時代の現役丸ポスト。

イギリス料理のあれこれ



ところで、読者の中には食事、特にフィッシュ&チップスに触れなかったことにお怒りの方もいるかもしれない。私から言えるのは、港町に行けば魚の選択肢が豊富でお気に入りを見つけられるのではないかということくらいだ。ブラウンソースをかけるとなおさら良いだろう。また、もし、イギリスを訪れることがあればコーニッシュ・パステイを、スコットランドまで足を伸ばせるのであれば、ぜひハギスも試して頂きたい。イギリス料理は実に味わい深い。

雨上がりの日曜日、中央公民館にて日本語学習者による発表会が行われました。開演前から満席で賑わうなか、原稿を手に真剣な面持ちの発表者から緊張が伝わってきます。

最初は、ミャンマー出身のニー ニー ウィン チョさん。日本語を学ぶことで、自分より相手の気持ちを優先する謙遜の文化を知り、視点が変わったとの話でした。

次は、初めての小学生発表者、彭（ホウ）姉妹。6年生の嘉穎（カエイ）さんと2年生の嘉語（カゴ）さんが会話形式で日本の防災訓練について発表し、通っている小学校の先生から賛辞を受けていました。

母国の友人のSNSが羨ましいと孤独に感じながらも、「日本での失敗も笑いに変えれば大丈夫という気持ちで頑張ります」という留学生蔡 晨（サイ シン）さんの奮闘ぶりには感心しました。また、スコットランドからのオリー・スティドマンさんの「(日本では) あまりにも多くの人が携帯電話に没頭して、周りの人の顔を見ることを忘れてる」との言葉には、大きく頷いてしまいました。しなみ街道でのサイクリングチャレンジを語る王 月（ワン ユエ）さんはヘルメット姿で発表、旅の楽しさがよく伝わってきました。

後半は中学一年生の華張 秋夏（カチョウ シュウカ）さんから始まりました。充実した学校生活の様子を語った後、BGMで流れていた美しいピアノ曲が自作であることが分

かり、感嘆の声が上がっていました。

パキスタンから来た弁護士のアミン サキブさんは、東京のスピードの早さや電車の乗り換えにはまだ慣れていないけれど、コンビニや自動販売機の便利さを絶賛していました。また、終始にこやかな代 春超（ダイ チュンチョウ）さんは、日本語教室で先生と話すのがとても楽しいと話していました。

最後は、賑やかな広州の春節の様子を語る劉 名宏（リュウメイコウ）さん。日本の正月は静かだけれども、おせち料理は全部の味が入っていて人生を味わうような気がして、どちらも素敵な文化だと締めくくりました。

発表者10名、言葉も文化も違う国に来て戸惑いながらも、それぞれに楽しみを見つけて頑張っている姿に、盛大な拍手が贈られました。

発表会の様子は右記ページ内にてご覧いただけます。



翻訳・通訳チームのコミュニティ通訳勉強会

2025年11月23日(土)

KIFAのボランティア、翻訳・通訳チームのコミュニティ通訳勉強会が開催されました。今回は日本公共通訳支援協会の代表



理事、西村さんと通訳講師の方をお迎えし、西村さんの「コミュニティ通訳の基礎知識」に関するお話の後、お二人がロールプレイを使って指導してくださいました。

西村さんのお話では、コミュニティ通訳とはそもそも何であるか、倫理・心得、そして技術的な基礎知識などを教えていただきました。具体的な現場実践技術はメカジキ（メ:メモ取り、カ:会話止め、ジ:辞書引き、キ:聞き返し）だそうです。メモ取りは一つのメモを短くするため、ノートの真ん中に線を引き縦2列にして、数字、接続詞、キーワード、用語などを半分のスペースに順次書く。略語や記号は日本語でも英語でも、自分で工夫する。会話止めは、自分が記憶できる長さで、会話を止めることをお願いして訳す。訳した後は、再開の合図。辞書引きは、通訳利用者双方に断ってから行う。知らない、あるいは不確かな単語を調べることは、むしろ通訳利用者たちに信頼感をい

かせる。聞き返しは、正しく通訳するためにためらわず行う。

ロールプレイは、日本で生まれてからB国へ行き、暫く住んだ後、小学校の時に日本へ戻って来たサリーちゃんの母親と学校のクラス担任との保護者面談という設定。サリーちゃんは言葉の問題と、日本に不在中、日本の学校の授業を受けていないというハンデがある。ロールプレイ参加ボランティアたちは、それぞれ个性的に通訳の役をこなしていましたが、不慣れと緊張から、時々本領を發揮できない場面も。通訳講師は、参加者たちの改善点を指摘しただけでなく、改善の方法も指南。そして、全員の良い点もあげて、勇気づけてくれました。

練習の後、練習中に使われた、海外にルーツを持つ子どもたちを支援する「入り込み授業」という専門用語が上り、仮にそれを直訳しても、そういうシステムが存在しない国の人たちには何のことか分からないというコミュニティ通訳の難しさが話題に。支援システムのことや、学校の保護者面談でよく使われる単語を事前に調べておくなど、コミュニティ通訳をこなす為の準備をすることも学んだ勉強会でした。



小学校準備教室

1月17日(土)

外国から来た親子のための小学校準備教室第3回(全5回)が開催されました。日本語があまり話せない、9歳までの小学生も対象です。当日は、親子4組が参加し、総勢10名でした。先生を担当するのは、こども日本語・学習支援教室のボランティア4名です。

まず最初にあいさつの練習です。先生と子どもが全員、自分の名前を言って「よろしくお願ひします」とあいさつしました。次に、12月に出された宿題を見て、やったところに○を付けます。ひらがな、数字、線などがあり、先生からやったところに花丸をもらっていました。

それから、当日の日にち、曜日、天気を確認しました。そして歌。全員手をゲーにして、「とんとんとんとん爺爺さん…」の歌を歌い、2回目は速度を速くして楽しみました。

小学校に行く時は、ランドセルの中にいろいろな物を入れていきます。筆箱、教科書など、その中身を確認しました。そして、朝学校に行くと、先生や友達にあいさつをするのでその練習。教室に入ってから、朝の会、授業があります。休み時間など、友達とぶつかったり、自分から謝る機会も出てきます。その謝り方も練習しました。給食の時の「いただきます」のあいさつ、家に帰る時の「さようなら」のあいさつなど、小学校の生活を穏やかに過ごす様々な場面を体験しました。準備教室では、あいさつをととても重視していることがわかりました。

それから、いろいろな動物の数え方を学んだあと、鉛筆の持ち方も教わりました。そしてテキストを開いて数字を書いていきます。数字の後はひらがなも書きました。テキストはボランティアの手作り。他の教材を参考で作ったそうです。子どもたちはとても使いやすそうでした。

残りの数ページは宿題となり、最後に「こぶた、たぬき、きつね、ねこ…」の歌を歌い教室は終わりました。

外国から日本に来て、子どもを小学校に入学させるのは、親にとって心配なことが沢山あると思います。この準備教室では、小学校生活の疑似体験ができ、子どもたちにも学校へ行く心構えが育つのではないのでしょうか。親子とも小学校生活への期待が膨らんでいきますように。



編集後記

早咲きの桜に始まり、今やソメイヨシノが至る所に咲き誇り、卒業、入学、就職など人生の節目を祝っているようです。桜の花は、心を浮き立たせる効果がありますね。天候やタイミングが難しそうですが、今年は、吉野の桜観光に挑戦したいと思っています。(Y・Y)

河原順一局長 離任の挨拶

この3月末をもちまして、5年間務めてまいりましたKIFAの事務局長を離任いたしました。



この間、小平市内で生活する外国人が増加する中で、KIFAでは日本語会話教室・外国につながるこども日本語学習支援をはじめ、ボランティアグループの主体的取り組みが進み、より外国人の方との交流が進んでいると実感しております。心より感謝申し上げますとともに、会員の皆さまのますますのご発展をお祈り申し上げます。

これからの行事予定(通年講座)

今年度、前期スタートの講座は下記を予定しています。

- | | |
|----------------|-----------|
| ◎日本語会話教室 | 月・木・金・土曜日 |
| ◎こども日本語・学習支援教室 | 水曜日 |
| ◎英会話教室(初級~中上級) | 月・水・木曜日 |
| ◎中国語講座(入門・初級) | 金曜日(5月開始) |
| ◎イタリア語講座(初中級) | 月曜日 |

※詳しくはKIFAミニレターおよびウェブサイトをご覧ください。

ボランティアグループ紹介

内容ごとにグループに分かれてボランティア活動をしています。ボランティアは常時募集しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

- 日本語会話教室(月・木・金・土の各グループ)
- 保育グループ
- こども日本語・学習支援教室グループ
- 翻訳・通訳グループ
- 生活情報提供チーム
- 災害時対応チーム
- 交流イベント(企画運営)グループ
- 国際理解講座グループ
- 世界の料理講座グループ
- 機関紙グループ

会員種別(個人)のご案内

- 普通会員(ボランティア活動をする方) 年会費 3,000円
- 学生会員(ボランティア活動をする18歳以上の学生) 年会費 1,000円
- 賛助会員(資金面で支援してくださる方・講座の受講生など) 一口 2,000円

※団体会員や法人会員についてはお問い合わせください。



発行日 2026年4月1日
発行 一般社団法人
小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488・7509
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

